

水耕栽培の食用花参入

城南製作所 長野のホテルに出荷

【長野】城南製作所（長野県上田市、宮本聖一社長）は、新規事業として水耕栽培事業を立ち上げた。主力の自動車部品以外の事業開拓の一環。主に食べられる花「エディブルフラワー」を栽培する。既に試行販売を始めて県内のホテルや飲食店に出荷しており、5年後に年間8000万円の売り上げを目指す。2030年までに非自動車分野で年間売上高10億円を目指しており、水耕栽培事業で達成につなげる。

車部品生産を補完

水耕栽培事業を担う場も建設した。関連の完全子会社 J Fresh Factory から投資額は非公表。4月（同市）を設立済み。このほど本格的で、併せて専用の新工に事業展開を始めた。



新工場には10基の水耕栽培設備を備える

新工場の延べ床面積は約220平方メートルで、10基の栽培設備を備え、管理および生産管理のノウハウを活用している。

屋内での水耕栽培により、エディブルフラワーなどを天候に左右されず安定的に生産、供給できる。栽培エリアと入退室の衛生管理を徹底し、雑菌の付着を抑えて洗浄などの工程を削減する。

同社は自動車部品の設計から製造まで手がける。新たな事業の創出を目指す中で食品事業に着目し、クリーンファーム（千葉県印西市）から設備を購入した。宮本社長は「従来と異なる事業を行うことで、社員に夢を与えることができる」と期待する。J Fresh Factoryの池田博之社長は「持続可能な社会の実現に貢献し、顧客に頼られる企業にしていきたい」と抱負を述べる。